

## 観光振興

次に、観光振興について申し上げます。

近年、地域の持続可能性に対する危機感が全国的に高まっています。少子高齢化にともなう人口減少と東京一極集中が急速に進むなか、地域が持続的に発展していくためには、地域が自らの価値を高め、関係人口を増やす等、持続可能な地域づくりに取り組むことが求められています。

これまで本町では、北海道遺産を有する道の駅しかべ間歇泉公園を観光交流拠点とし、自然や食を通じ、鹿部のファンづくりを進めてきました。より一層の活性化が必要不可欠と判断し、令和元年4月から民間のノウハウを活用した指定管理者制度や地域おこし協力隊などの外部人材を導入することにより、さらなる

魅力アップを図ってきたところでです。

令和3年度においても、魅力を高め集客を増やし、利便性の良い施設となるよう指定管理者と連携した取組を進めるとともに、地域経済への波及効果を生み出し、町民の皆様も参加し応援したくなるような道の駅を目指します。

また、多様なニーズに対応した観光情報の発信についても、関係機関との連携を強化し、「海と温泉のまつり」をはじめとする町内イベントの開催や、周辺市町と一体となった道内外でのプロモーションのほか、様々な情報媒体の活用により食や景観など町の旬な魅力を広く発信します。

本年度においても、引き続き、食を通じたひとつづくり・まちづくりの取組でありますA級（永久）グルメ構想を推進し、「につぼんA級（永久）グルメのまち

連合」構成自治体と連携した取組を充実させ、理念の普及・啓発やブランド価値の向上に努めます。

同様に、本町の基幹産業である前浜漁業を活かし、多様な主体の連携による新商品・新サービス開発、観光振興、定住・交流促進等の推進を図るため、産業連携ビジョンを策定しました。

鹿部公園など公園施設については、町民をはじめとする利用者が安心して快適に利用できるよう施設の点検や補修などを行い、適切な維持管理に努めます。

## 地域公共交通対策

次に、地域公共交通について申し上げます。

本町の地域公共交通は、人口減少や生活スタイルの変化等によりバス利用の低迷が続いていますが、今後増加が予想される高齢者

ます。

## 子育て支援の充実

次に、子ども・子育て支援について申し上げます。

「みんなが家族 あつたか子育てのまち しかべ」を基本理念とした「第2期鹿部町子ども・子育て支援事業計画」に基づき、子育て支援を充実させ、保護者の子育てにかかる負担を軽減する目的で、新たに子育て負担ゼロへの取組について検討します。

また、「子育て世代包括支援センター」の機能を充実させ、妊娠・出産・子育てを通じた切れ目のない支援を継続していきます。

## 地域福祉の充実

次に、地域福祉について申し上げます。

をはじめとする交通弱者の方々の生活の足、確保のため、鹿部町地域公共交通網形成計画に基づき、令和3年5月からコミュニティバスと路線バスを再編して本格運行します。

町民が安心して暮らせるための移動手段の確保に向けて、引き続き、継続可能で便利な地域公共交通の充実を図ります。

また、令和12年に予定されている北海道新幹線「新函館北斗駅札幌間」の開業に伴い、JR北海道から経営分離されるJR函館本線について、沿線市町で構成されている対策協議会において検討を行っています。

令和2年度では函館本線の利用者の流動調査や将来の需要予測の分析を行っており、対策協議会の検討内容や方向性について、段階的に町民の皆様と情報共有を図りながら、地域間交通の確保についても取り組み